

平成 22 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010 - W - 03

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地殻ダイナミクスの総合的理解：地球物理学と物質科学の知見の総合英文：Comprehensive understanding of crustal dynamics: Integration of Geophysics and Geology4. 研究代表者所属・氏名 北海道大学大学院理学研究院・竹下 徹(地震研究所担当教員名) 岩崎貴哉

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
竹下 徹	北海道大学・教授	研究会企画および講演	2010/7/24-25	2	有
飯尾能久	京都大学防災研究所・教授	研究会企画および講演	2010/7/24-25	2	無
岩崎貴哉	東京大学地震研究所・教授	研究会企画および講演	2010/7/24-25	2	有
飯高 隆	東京大学地震研究所・准教授	講演	2010/7/24-25	2	無
加藤愛太郎	東京大学地震研究所・助教	講演	2010/7/24-25	2	無
勝俣 啓	北海道大学・准教授	講演	2010/7/24-25	2	無
渡部悠登	北海道大学・修士課程1年	討論参加	2010/7/24-25	2	有
岡本あゆみ	北海道大学・学部4年	討論参加	2010/7/24-25	2	有
吉村令慧	京都大学防災研究所・助教	講演	2010/7/24-25	2	有
鷺谷 威	名古屋大学・教授	講演	2010/7/24-25	2	有
武藤 潤	東北大学・助教	講演	2010/7/24-25	2	有
中島淳一	東北大学・准教授	講演	2010/7/24-25	2	有
岡田知己	東北大学・准教授	講演	2010/7/24-25	2	有
津村紀子	千葉大学・助教	講演	2010/7/24-25	2	有
石井和彦	大阪府立大・准教授	講演	2010/7/24-25	2	有
奥平敬元	大阪市立大・准教授	講演	2010/7/24-25	2	有
青木 将	大阪市立大・学部4年	講演	2010/7/24-25	2	有
石川正弘	横浜国立大学・准教授	講演	2010/7/24-25	2	有
道林克禎	静岡大学・准教授	講演	2010/7/25	1	無

重松紀夫	産総研・主任研究員	講演	2010/7/24-25	2	有
長 郁夫	産総研・研究員	講演	2010/7/24-25	2	有
高橋雅紀	産総研・主任研究員	講演	2010/7/24-25	2	有
芝崎文一郎	建築研・上席研究員	講演	2010/7/24-25	2	無
西村卓也	国土地理院・主任研究官	講演	2010/7/24-25	2	有
高田陽一郎	京大防災研観測所・助教	講演	2010/7/24-25	2	有
松本 聡	九州大学・准教授	講演	2010/7/24-25	3	有
藤本光一郎	東京学芸大学・助教	講演	2010/7/25	1	無
豊島剛志	新潟大学教授	講演	2010/7/24-25	2	有

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード： 地殻ダイナミクス, 内陸地震の準備過程, 地球物理学（観測, シミュレーション）, 地質学

本研究集会では、「内陸地震の準備過程」をキーワードに地震観測, 地下構造地震探査, 測地学的観測, 電気伝導度観測などの地球物理学的観測とシミュレーションを行っている地球物理学者, および天然の露出した地殻深部の変形岩の微細構造解析および岩石の地震波速度の測定を行っている物質科学者（地質学者）と構造発達史を研究している地質学者が一同に介し, それぞれの分野の最新の研究を紹介し, 活発な議論を行った。この研究集会を通して, 各分野での最先端での研究が他分野の研究者を大いに刺激することになったほか, それぞれ分野の中で独立に研究するだけでは気付かれなかった事実が判明するなど, 引き続いて地球物理学と地質学の知見を総合することこそが, 地殻ダイナミクスの本質的な理解に繋がることを両分野の研究者が確認することが出来た。このような分野横断型の集会での研究者の交流が, 両分野を融合するような大型研究プロジェクトの立ち上げの土台となると考える。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

(*¹論文タイトル, 雑誌・学会・セミナー等の名称, 謝辞への記載の有無, ポイント数, 電子ファイル添付のこと)

著者（研究集会参加者にアンダーライン）・論文タイトル	雑誌名	謝辞の有無	ポイント数
Imayama, T., <u>Takeshita, T.</u> and Arita, K., Metamorphic <i>P-T</i> profile and <i>P-T</i> path discontinuity across the far-eastern Nepal Himalaya: investigation of channel flow models.	Journal of Metamorphic Geology, 28, 527-549, 2010.	無	3
<u>Okudaira, T.</u> , Ogawa, D. and <u>Michibayashi, K.</u> , Grain-size-sensitive deformation of upper greenschist- to lower amphibolites-facies metacherts from a low- <i>P</i> /high- <i>T</i> metamorphic belt	Tectonophysics, in press, 2010.	無	3